

授 業 科 目 名	保育内容指導法 (音楽表現)	教 員 名	佐々木 由喜子	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
					保育士	選択
授 業 形 態	演習	担当形態	単独	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
科 目 番 号	F0I207	配当年次	2年前期		小幼コース	選択必修
単 位 数	2単位				幼保コース	必修
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
一 般 目 標	(1)領域「表現」のねらい及び内容 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。					
	(2)領域「表現」の指導方法と保育の構想 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。					
到 達 目 標	(1)領域「表現」のねらい及び内容 1)領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2)保育における5領域内容を踏まえ、表現における幼児が経験し身に付けていく内容と留意点を理解している。					
	(2)領域「表現」の指導方法と保育の構想 1)乳幼児の発達を踏まえた保育の構想の重要性を理解している。 2)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 3)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育の向上に取り組むことができる。					
授 業 の 概 要	幼児期において育みたい資質・能力を理解し、指針・要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即した主体的・対話的で深い学びを目指して、具体的な保育場面を想定した指導法を学ぶ。 子ども自らが主体的に遊ぶ中で体験を通して学び成長するように、学生自身が音楽あそびの体験を通して、音や音楽とからだの動きの相関性を理解し音楽表現について学ぶ。具体的には、グループ演習のアクティブ・ラーニングにより、手遊びうた、歌遊びや楽器遊び、保育教材などの実践を行い、乳幼児の発達段階に合わせた教育・保育実践を研究する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：オリエンテーション シラバスを配布し、本講義の流れについての理解を深める。 幼稚園教育要領の各領域のねらいについて理解する。（目標(1)-1), 2))					
	第2回：幼児の音楽的活動を実践していく際に必要な発達の視点について、身体表現活動および楽器を使った活動を体験することを通して理解する。（目標(1)-1), 2), (2)-1))					
	第3回：音や音楽を使った多様な表現方法の実践例を紹介し、表現活動を経験することにより、表現活動と保育者の役割について考える。（目標(1)-2), 3), (2)-2))					
	第4回：乳幼児の発達と音楽的な表現活動との関連を理解し、幼児音楽教育者（ダルクローズ・オルフ・コダーイ・鈴木鎮一・モンテッソーリ）について学習する。いずれかの教育法についてのグループで研究しレポートを作成し、プレゼンテーションする。（目標(1)-2), (2)-1), 2))					
	第5回：わらべうたについて、その歴史と伝承音楽について学ぶ。また保育指導の展開についてグループ演習を通して考える。（目標(2)-1), 2))					
	第6回：豊かな感性を育むための子どもの歌と楽器を組み合わせた遊びの展開について、グループ活動を通して考え実践する。（目標(2)-1), 2))					

	第7回：保育における子どもの表現活動（身体表現・音楽表現）の意義について理解し、それぞれの活動における遊びの展開や子どもの表現を引き出す関わり方について学ぶ。（目標(2)-1, 2)） 第8回：打楽器を用いた保育における遊びとその展開について、子どもたちの興味関心、遊びの姿から保育環境を整えていくことを学ぶ。（目標(1)-2), (2)-1) 2)） 第9回：打楽器を用いた保育における遊びの計画を立て、グループで実践する。実践後の振り返りを通して子どもたちの主体的・対話的学びについて考える。（目標(1)-2), (2)-1) 2)） 第10回：子どもの感性と音や音楽の繋がりについて体験を通して学び、絵本を用いた音楽表現活動をグループで立案する。（目標(2) 2)、3)） 第11回：絵本を用いた音楽表現活動をグループで実践する。（目標(2) 2)、3)） 第12回：子どもの表現遊びの動画を通して、子どもの主体的な遊び体験を重視した活動展開と保育者の関わりについて学ぶ。（目標(1) 2)、(2) 1) 3)） 第13回：視覚教材を用いた子どもの音楽表現活動を計画し模擬保育の準備をする。（目標(1)-2), (2)-1)） 第14回：発表① 視覚教材を利用したグループでの模擬保育を実施し、お互いに評価する。（目標(1)-2), (2)-2)） 第15回：発表② 期末試験：試験期間中に実技試験を実施する。
学 生 に 対 す る 評 価	グループ発表・個人発表40%、レポート等記述課題30%、期末試験30%で評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに口頭で行う。
時 間 外 の 学 習 に つ い て	（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。） 事前学習：毎回、指導者より出された課題をしっかりと練習し、次回の発表に備える。 事後学習：講義内容について自分なりに整理し、次回授業について確認する。
テ キ ス ト	『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 『新たなしい子どものうたあそび』（同文書院）
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	『幼稚園教育要領〈最新版〉』 『保育所保育指針〈最新版〉』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈最新版〉』
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	授業内で身体表現活動を行うため、動きやすい服装で参加すること。
オ フィ ス ア ワ ー	授業以外の空時間に実施（メール等でアポイントを取ること。）
備 考	なし